

キッズ陶芸教室 開催しました！

彦根市荒神山自然の家自主事業として、今年新企画で行った、キッズ陶芸教室。新しい年となった令和4年1月8日土曜日に開催しました。幅広く利用していただく自主事業として荒神っ子クラブでは、従来よりキッズバージョンを開催しています。そこで、陶芸分野でも同じ取り組みができるのではないかと発想とともに、この企画を使って、親子でものづくりを楽しんでもらいたいという思いから実現にこぎつけました。



キッズ荒神っ子クラブでは、小学校低学年付近の子ども達がなかなか思うようにはいかないものの、思い思いの発想をしたり、小さな手で一生懸命創作したりととても楽しい様子が例年うかがえます。きっと陶芸分野でもおなじ思いや楽しみを感じてもらえるのではないかと我々は考えました。しかしながら、陶芸というすこし限られた活動になると困難を極めることも予想されるので、保護者の力を

借りながら進めていこうということで発足しました。

初めての取り組みでもあるので、今回は、午前と午後の部それぞれ半日単位でまずは、どのように流れていくのかを実際に活動に照らし合わせて今後の検討課題としても考慮しながらの始まりでした。

今回は、保護者など家族のサポートを受けながらオリジナルのカレー皿づくりを企画しました。

まず、直径30cmほどの円盤状の粘土(材質は、なみこし粘土のみ)に、なみこし粘土と赤土粘土を1：2の割合で混ぜ合わせた粘土で模様や図柄を貼り付け埋め込んでいきます。粘土を1：2の割合で混ぜ合わせるのは、貼り付け焼き上げるときに剥がれたり、その部分からひび割れたりするのを防ぐ意味合いがあります。大人だったらさて、どのような図柄にと悩むところですが、そこは思い切りのいいキッズ達。思い思いの工作の呈で、粘土を紐状にしたり、平らにしたりと手際よく進めていったのには感心しました。その後、貼り合わせた粘土を円盤状の粘土に埋め込むために、厚さ7mmのガイドバーを横に置き、のし棒で上から押しつけるように転がしながら粘土を埋め込みます。この作業は、やはりキッズでは難しく、保護者や所員のサポートを受けながらしっかりと粘土に埋め込みました。



絵や文字など思い思いのものができあがり、何を作ったのか尋ねてその答えに納得。キッズ達

の想像力のたくましさに所員一同感心していました。

続いて、できあがった円盤状の粘土をお皿に加工する手立てとして、ボール鉢を裏返してその



上にかぶせてかたどります。ここでは、大人の手を借りて、そっとボール鉢にかぶせました。なぜなら、この段階で余分なところに力が入り形を崩したり、薄くなったり、かぶせて再度やり直すときにいびつになったりするので慎重にしないといけないからです。そっと置くとき、横で見ているキッズ達も思わず肩に力が入っていたと感じたのは、決して所員だけではないと思います。

最後に、円盤状の粘土からお皿にかたどった粘土を、自然の家で焼き上げて完成。

今回初めて試みとして、キッズに焦点化した陶芸を打ち出したところ問い合わせの段階でかなりの方が興味を持っておられることがわかりました。人数の都合で、惜しくもご参加いただけなかった方々もおられ申し訳なく感じています。次回の検討課題として考慮したいとともに、大変ありがたく思っています。



今後も、子どもたちを含めて幅広い年代の方々が、荒神山自然の家に来て、たくさんの友だちと楽しい時間を過ごしたり、新しい出会いがあったり、趣味や特技を伸ばしたりなど楽しい

企画を考えてお待ちしております。また、陶芸教室もさまざまな趣向を凝らした企画を展開するなど新しいジャンルにも果敢に広げていきたいと考えております。

ぜひ荒神山自然の家自主事業においでください。皆様のおいでをスタッフ一同お待ちしております。